

# 草加市立病院マスタープラン 及び現状・将来像について

草加市立病院

# 草加市立病院マスタープラン (新改革プラン)について

病院の現状	病院名	草加市立病院		現在の経営形態			公営企業法全部適用	
	所在地	埼玉県草加市草加二丁目21番1号						
	病床数	病床種別	一般	療養	精神	結核	感染症	計
			380	0	0	0	0	380
一般・療養病床の病床機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	※平成28年度病床機能報告値		
		123	257	0	0	380		
診療科目	科目名	内科、血液内科、内分泌・代謝内科、膠原病内科、腎臓内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、小児科、外科、心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、精神科、救急科（計24科目）						
(1) 地域医療構想を踏まえた役割の明確化	① 地域医療構想を踏まえた当該病院の果たすべき役割	草加市立病院は今後急性期患者が増加する地域であること、また地域における唯一の基幹病院であることを考慮すると、民間医療機関では対応が困難な高度・先進医療を提供することが草加市立病院の果たすべき役割と考える。						
	平成37年（2025年）における当該病院の具体的な将来像	地域における急性期病院として、高度・先進医療の提供を行うため、①専門的医療が必要ながん疾患への医療提供体制の強化②救急医療提供体制の維持③紹介率・逆紹介率の向上（特に手術症例の増件）を達成することを目標と掲げる。③に関しては、地域医療支援病院を目指すものとする。これらを実現するにあたり必要不可欠な①外来枠の整理②手術室運用会議開催（手術枠の見直し及び運用効率の改善）を実行する。						
	② 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割	地域における急性期病院として、①民間の医療機関では困難な高度・先進医療の提供、②急性期病院として、紹介患者、救急患者の24時間の受入体制の維持、③患者が必要な時に必要な医療、介護をシームレスに受ける事が出来る様、近隣の医療機関やケアマネージャーと連携を行い、効率的な医療提供体制の構築を行う。上記を達成する為に、地域の医療機関、介護施設と連携強化の為に勉強会を行い、地域包括ケアシステムの中での草加市立病院の役割、地域の医療機関、介護施設の役割を明確にしていく。						
③ 一般会計負担の考え方	人口24万人超の草加市において、唯一の基幹病院である為、地域の全ての急性期医療機能を担う必要がある。産科医療、小児医療、救急医療等の採算性の高くない医療の安定的な提供や、使用頻度の比較的低い医療機器の一部保有もやむを得ない状況である。それゆえ、一般会計負担金の一定額は必要と考えている。  一方、経営健全化による改善余地が十分にある事も同時に考察している為、一般会計負担をこれ以上に増やす事無く、現状維持を前提とした金額で当面は経営を担っていきたい。							

# 草加市立病院マスタープラン (新改革プラン)について

## 4つの視点

### 1. 地域医療構想を踏まえた役割の明確化

地域における唯一の急性期病院として、更なる進化を目指す

①がん疾患の強化 ②救急医療体制の維持

### 2. 再編・ネットワーク化

地域医療支援病院の取得

### 3. 経営の効率化

経営効率化に向けた各種目標数値の達成

### 4. 経営形態の見直し

地方公営企業法全部適用からの変更は無し

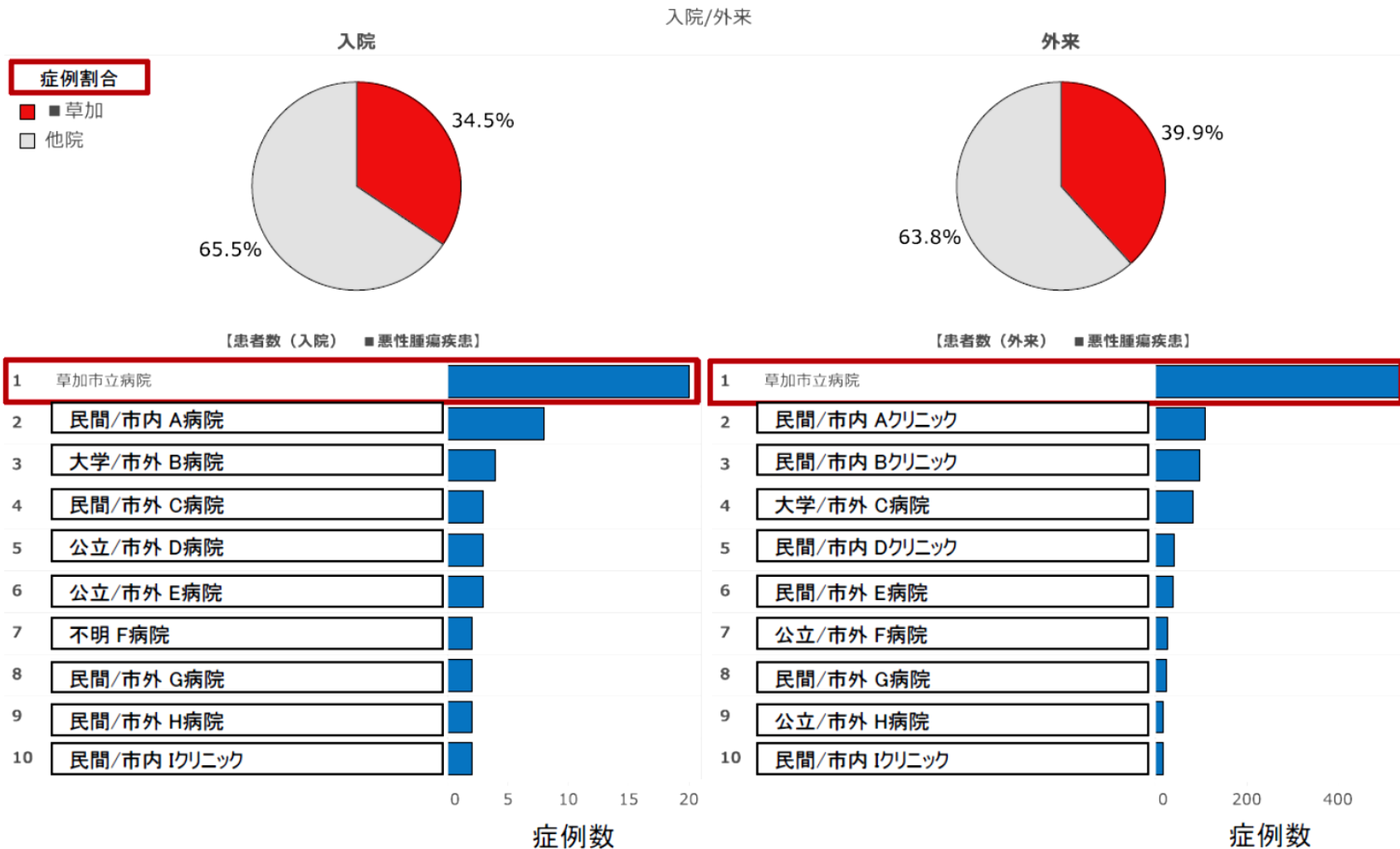
# 地域医療構想を踏まえた当該病院の果たすべき役割

- ・草加市立病院は今後急性期患者が増加する地域であること、また地域における唯一の基幹病院であることを考慮すると、民間医療機関では対応が困難な高度・先進医療を提供することが草加市立病院の果たすべき役割と考える。



現在、市内の悪性腫瘍患者の3～4割を受入れているが、  
 今後はさらに市内患者を受入れられる体制を構築する。

【草加市内患者の受療医療機関分析 悪性腫瘍 入外別 受診症例割合と受診症例数】

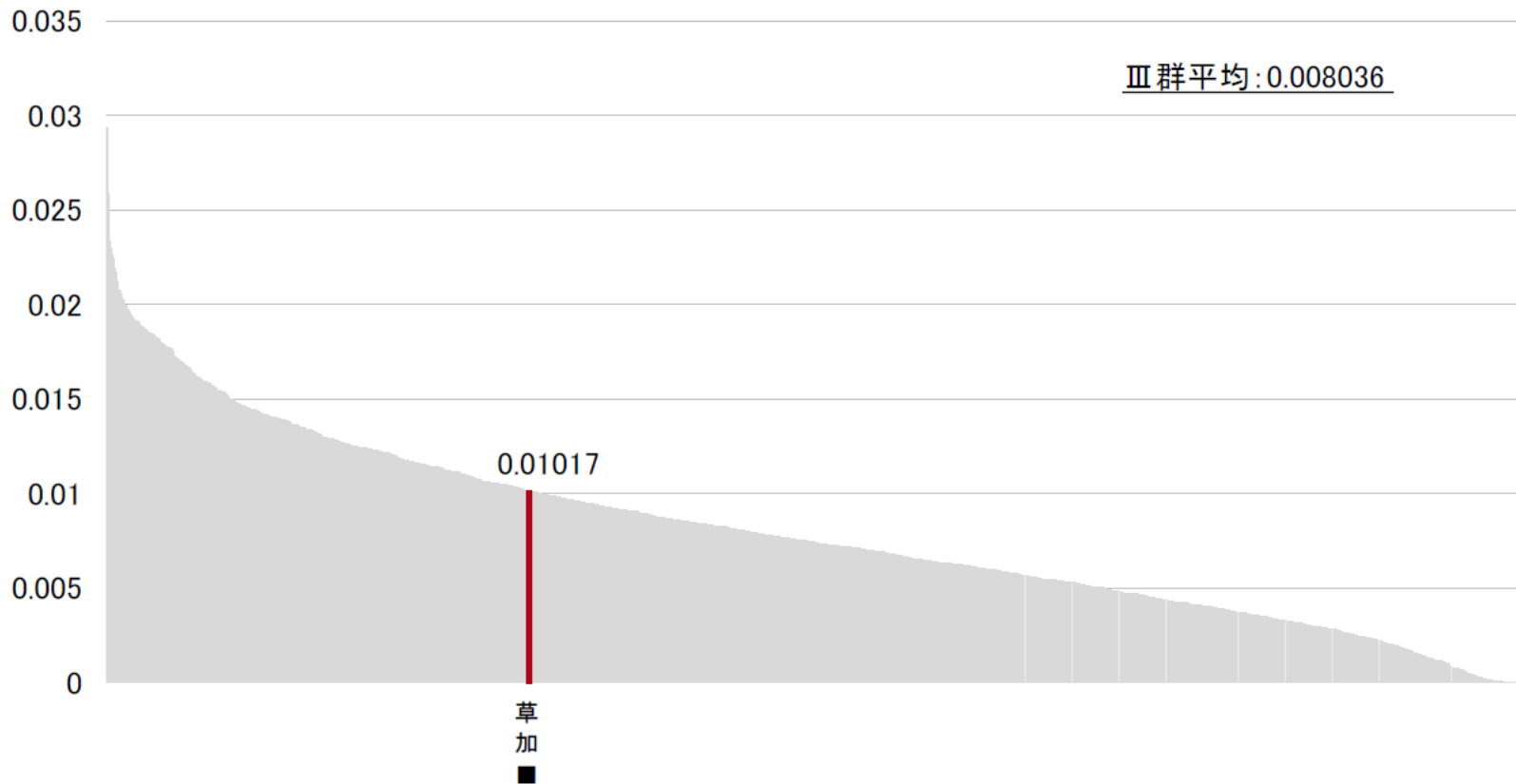


註: 国保レセプトデータ 2015年4月～9月より



Ⅲ群病院と比較すると当院の救急医療係数は高い。

【Ⅲ群 1,442病院 2016年度救急医療係数ベンチマーク】





経営効率化に向けた目標を設定し、具体的戦略を実行していく。

- 経営効率化に向けた各種目標と戦略
  - 病床の効率的な運用
    - 1日単価の向上
      - 短手3手術症例の在院日数短縮
      - がん患者受入体制の構築
    - ベッドコントロール最適化
      - ベッドコントロール会議開催
    - クリニカルパス強化及び適用率向上
      - クリニカルパス見直しの為のDPC検討会の開催
  - コスト削減
    - 術前検査の外来実施
      - 術前外来検査のパス化
      - 入院サポートセンターの部分導入
    - 委託費削減
      - 外注検査、医療機器保守費用等
    - 材料費削減
      - 循環器領域、整形外科領域
    - 残業代削減
      - 看護助手活用強化（業務内容の見直し、目標管理制度の導入等）

# 当院の将来像について

地域における急性期病院として、高度・先進医療の提供を行うため、

- ①専門的医療が必要ながん疾患への医療提供体制の強化
- ②救急医療提供体制の維持
- ③紹介率・逆紹介率の向上(特に手術症例の増件)を達成することを目標と掲げる。

③に関しては、**地域医療支援病院**を目指すものとする。

これらを達成するにあたり必要不可欠な①外来枠の整理②手術室運用会議開催(手術枠の見直し及び運用効率の改善)を実行する。